



大阪テクノセンター見学会報告

公益社団法人 日本建築積算協会 関西支部
会員委員会・アッサル委員会 井関 健



令和6年2月9日に大阪の南港にある㈱鴻池組様の技術研究所である、大阪テクノセンターの見学会を行いました。技術研究所の見学会は、関西支部で、初の試みとなりました。

研究内容を見学するだけでなく、技術センターの建物そのものがZEB建築であったり、薄型免振装置の採用や、杭を利用した地中熱利用システムによる自然冷暖房装置などの技術や、従来からある建築手法も取り入れた建築の実体験となりました。

ゼネコンの技術研究所は、2023年度の売上高上位14社を調べると、平均して関東に1.2拠点、海外に0.07拠点あり、関西圏に技術研究所があるゼネコンは東京本社の影響もありそうですが少ない状況で、関西ゼネコンの技術研究所を調べると、関東に集中していることが分かりました。昔、米国では、西海岸の研究グループが面白い研究をすることが多いといった教授の言葉を考えると、関東に集中している状況は、アイデアの発想の風土が偏っていると思われ、少し意外で残念な気も致しました。関西の学生さんで研究職を志望される方は、関東へ流出してしまうという理由もあります。

話は少しそれましたが、今回学んだ建物の概要は、建築面積:1743.61m²、延床面積:4793.57m²、S造免震構造 地上4階、塔屋1階（管理棟）

（注:建築面積等は実験倉庫棟・駐車場棟含む）
で、学んだ（体験した）技術としては、

- 1. 杭を利用した地中熱利用システム
- 2. エコボイド（円筒効果・吹抜）
- 3. 薄型免震装置
- 4. ピットを使用した自然エネルギー利用換気
- 5. 太陽光発電設備 です。

スペースとして、COMMUNICATION HUBと呼ばれるフリースペース等も紹介いただきました。

また鴻池組さんの歴史等の紹介もあり、明治維新以降の関西建築土木の発展がどのようにあったのかの一部を学ぶことができたのではないかと考えています。

近年、ZEB化や、免震技術、太陽光発電については、一般的な技術であるものの体験する機会というのは、思った以上にない技術ではないかと考えています。

今回は、積算協会関西支部の会員委員会とASSAL委員会の合同で企画しましたが、今後も会員の方はじめ、非会員の方でも、会員の方から教えてもらって参加される方などへ活動を行っていきますので、これは、と思う活動へは、会員御自身だけでなく、部下の方や先輩も誘っていただき、自己研鑽に励んでいただけることを望んでおります。

見学会後交流会も行いましたが、会社やインターネット等ではわからない知識の収集などにもご活用下さい。

このたびは、㈱鴻池組の中島様ならびに、担当の方で大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

